

記録映画 カラー 16mm 3巻 28分

東京女子医科大学

企画 東京女子医科大学

製作 株式会社 桜映画社

解説

これは、世界に二つしかないといわれる女子の医科大学、東京女子医科大学の歴史と、素晴らしく発展した現在の施設を紹介する目的で、純粹に大学の手によつて企画された映画である。

明治時代が生んだすぐれた先覚的女性吉岡弥生の蒔いた種が、今日大樹のような姿になつて、緑したたる新しい葉をつけ実をつけている姿を見る。そこには、患者本位の医療病院という吉岡弥生の至誠の精神が生きている。

あらすじ 東京女子医科大学は吉岡弥生の苦闘の末、明治33年、日本における最初の女医専門の養成機関として東京女医学校から出発し、東京女子医学専門学

校（女子医専）、更に、戦後大学に昇格したものである。

明治から昭和に及ぶ70年の発展の歴史は、創設者吉岡弥生の、ひとすじの信念を見る思いのする歴史でもある。

× × × ×

今の学生達は、恵まれた環境の中でのびのびと勉強している。

古い写真にみる昔の授業風景とは比較にならない新校舎の各種の充実した教室、実験室等々。

二階にある図書館も独特の設計で静かで明るい。

× × × ×

付属機関が多彩である。

まず伝統ある付属病院。ここには三神内科（女子医専時代の卒業生で現付属病院長の三神美和教授）のほか、産婦人科、糖尿病科と、特色

ある科がそろつている。

荒川区尾久町にある付属第二病院は、昭和5年、女子医専の学生達がここで無料診療を行つたのが縁で開設された。

都内でもベッド数の少ないこの地にあつて、貴重な存在である。

× × × ×

わが国最初の心臓専門の病院、日本心臓血圧研究所は、昭和30年に創設された。

ここでは、人工心肺を用いた榊原仵教授の心臓手術が行われている。

10才未満の先天性心臓疾患の子供たちを収容した小児病棟、「突然死」から人命を守る狭心症心筋梗塞センター(CCU)も、独特の施設である。

新装なつた神経精神科。従来のショック療法よりも薬物療法に重点をおき、行き届いた配慮で、患者の社会復帰に努力している。

最も新しく誕生した消化器病・早期がんセンター。教授達は個室を持たず、常に一室にいて、中山恒明教授を中心に患者の病状について緊密迅速な意見の交換を行つている。

心研との合同カンファレンスも、定期的に開かれている。

女子医大独特の学位に、臨床課程

を6年間研修した者に与えられる「医療練士」がある。これらの人びとは勿論、一般医師にも門戸を開いて各教授の手術の模様や解説がカラーテレビとインターホーンを通じて、アイトホールに実況中継され、豊富な実施経験を積んだ医師を社会に送り出す建前がとられている。

これらの病院は、診療は患者本位という思想に貫かれて、訪れる患者は、各種の検査を受けながらひと廻りすれば、その日のうちに結果と治療方針がわかるという特色あるシステムがとられている。

× × × ×

研究所や病院での研究や治療結果は、学生達の日々の教育にも、直接役立てられている。

充実した施設、すぐれた教授に恵まれ、学生達は、明日の医師をめざして、勉強に、クラブ活動に、充実した毎日を送っている。

***** スタッフ *****

製	作	村	山	英	治
監	督	金	子	精	吾
撮	影	金	山	富	男
照	明	波	田	実	男
編	集	沼	崎	梅	子
音	楽	浜	坂	福	夫

株式会社 桜 映 画 社

東京都新宿区角筈2-84スタンダードビル

電話03(342)5768代表